



## 全国に広がるTシャツアート 世界初モンゴルでひらひら

5月ゴールデンウィークに黒潮町で行われるTシャツアート展（NPO砂浜美術館主催）は、全国から出展されたイラストや写真をプリントした1000枚を超えるTシャツを、まるで洗濯物を干すかのごとく、真っ白な砂浜にひらひらさせるイベント。今年で21回目を迎え、もはや全国的にも知れ渡り、そのひらひらの文化は、日本各地でも広がりを見せているようです。

そんな中、今年8月に、日本を越え、モンゴルでのTシャツアート展開催が実現されました。

きっかけは、イベントに県外からボランティアスタッフとして参加した、西村優美さんが「このすばらしい風景をモンゴルの草原で再現し、子どもたちに見せてあげたい。喜ばしてあげたい」という思いを持ったことからでした。

JICA（ジャイカ）青年海外協力隊としてモンゴルの子どもたちに絵を教えていた西村さんは、平成18年に開催したTシャツアート展にボランティアスタッフとして参加

していました。

「モンゴルの草原でTシャツアート展を開きたい」その思いは、町内での滞在期間中、そしてモンゴルでもたった一人で周囲に語り続けられました。そして、西村さん同様モンゴルで活動する青年海外協力隊のメンバーやモンゴル国内の仲間たちからの賛同・協力を得て、市の観光局にまで声を届けることができたのです。大草原での開催には至りませんでした。ウランバートル市街で、2日間のTシャツアート展を行うこととなりました。

## モンゴルの子どもたちと 入野小学校4年生児童・ 大方高校生徒の交流

ウランバートル市街の広場でひらひらするTシャツは、地元国立孤児院の子どもたち45人とモンゴルの芸術家たちの作品に加え、町内入野小学校4年生児童23人、大方高校の生徒29人のイラストがプリントされた作品もありました。

西村さんは、この企画を発案した当初から「黒潮町とモンゴルの子どもたちとの交流が生まれたら…」と考えてい

ました。

さっそく、NPO砂浜美術館のスタッフとともに入野小学校へこの企画を提案したところ、急な話にも関わらず、学校もこの企画に賛同し、4年生の総合的な学習（国際理解教育）の授業の一環として、この取り組みに参加することとなったのです。

Tシャツにプリントするイラストの制作だけでなく、子どもたちへのささやかなプレゼントも手づくりされました。



入野小学校4年生児童がプレゼントした、メッセージ付きしおりと海の生き物のキーホルダーは、モンゴルの子どもたちにとっても喜ばれていました。

### 入野小学校4年生の子どもたち 「モンゴルの香りがするー」

開催後、9月29日、NPO 砂浜美術館職員の村上健太郎さんから、入野小学校4年生の児童たちへ報告がありました。

現地での様子をビデオ映像で見た子どもたちは、自分のTシャツが外国の街中で風によよぎ、大勢の人たちに見てもらっていることに感動しているようでした。

自分の描いた絵がTシャツにプリントされた嬉しさを児童全員が満面の笑顔で見せていました。また、自分のもとに戻ってきたTシャツを手に



し「モンゴルの香りがするー」とはしゃぐ児童もいました。モンゴルという国への興味が深まったようで、村上さんへの質問がたくさん出ていました。そして何よりも、みんなが一生懸命手作りしたプレゼントを手渡された孤児院の子どもたちの喜ぶ姿に、本当にとっても嬉しそうな表情で見入っていました。

### モンゴルの草原でひらひら

今回モンゴルでのTシャツアート展を実現させた西村さんとNPO 砂浜美術館の夢はさらに続きます。

来年こそは、モンゴルに大きく広がる緑色の草原での、Tシャツアート開催です。

入野小学校でも「緑色の草原でのTシャツアート展を見たい」と期待の声も上がっています。

NPO 砂浜美術館の村上さんは「黒潮町にある4キロも続く砂浜も珍しいけれど、モンゴルにあるような大きく広がる草原も日本にはありません。言葉も文化も違う場所で、Tシャツアート展ができること、砂浜美術館という考え（価値観）を共に知りあえる



来年はこのモンゴルの大草原でTシャツアート展をぜひ開催してみせます！（中央が西村優美さん）

ことはとても貴重なことだと思えます。これからも、モンゴルと黒潮町の子どもたちの交流を広げていけるように、まずはモンゴルの草原でのTシャツアート展の実現を目指したい。ひらひらの文化を広めていきたい」と話してくれました。

### 砂浜美術館構想 「私たちの町には美術館がありません 美しい砂浜が美術館です」

「私たちの町には美術館がありません、美しい砂浜が美術館です」をコンセプトに、私たちの町では、入野松原をバックに広がる真っ白な砂浜

を美術館と見立て、そこに存在する自然や生きもののそのものすべてが、貴重な作品であるという価値観を全国に発信しています。

この概念を分かりやすく心で感じてもらうと、砂浜美術館では、今年5月で21年目を迎えた「Tシャツアート展」、「はだしマラソン全国大会」、「砂像彫刻」、夏のお祭り「シーサイドギャラリー夏」、今年11月6日から始まる（8日まで）「潮風のキルト展」、「らっきょうの花見」など、年間を通じてさまざまなイベントが実施されています。

現在、イベント活動を中心となって運営しているのが、NPO 砂浜美術館です。

今から21年前、旧大方町役場の職員や地域の有志、そして早くから町の自然に魅了され活動に加わった町外の方々、そんな仲間たちがともに、町の美しい自然を全国へ発信するための「砂浜美術館構想」を生み出しました。

その活動が、末永く継続され、後の観光事業にも結びつけられるよう、主体がNPO 法人化され今にいたります。